

固定観念にとらわれない
 新しい自治会のカタチ

アパガーデンパレス多摩境自治会



The Machibito — Chiki ni Ikinu

古くから日本は地域でまとまり、助け合って暮らしてきた。今では隣に誰が住んでいるのかも分からない、そんな時代。しかし、阪神・淡路大震災や東日本大震災がきっかけで、町内会・自治会の意義が見直されている。町田市には309の町内会・自治会が存在し、加入世帯の高齢化や参加メンバーの固定化が課題となっているが、20〜30代の若い母親が活躍する、そんな自治会が存在する。

維持管理を目的とするのが管理組合だとすれば、自治会は住民同士の親睦や生活の向上、地域との連携を目的としたコミュニティといえる。

に共感してくださる方が増えるにつれ役員への負担も減っていきまし。前副会長も30代の女性で、小学1年生と5年生の子どもを育てながら務めていた。女性だけでなく、働き盛りの男性も積極的に参加している。若い世代の参加が多いことで、その世代が抱える問題提起がさかんなことも特徴の一つだ。

一方、定年退職後に交通の利便性とフラットな居住空間が魅力で木曾から引っ越してきた元会長はこう話す。「彼女たちのおかげで無機質ではない、温かい人間同士の繋がりが生まれています。高齢者は人生の先輩として、若い世代をサポートする。バランスもうまく取れていると思います。それにしても彼女たちは子育てしながらいろんなことをやっていたのける。実にパワフルですよ。」

2 29世帯が居住するアパガーデンパレス多摩境。駅に直結する利便性で、働き盛りの若い世帯から高齢者まで、幅広い年齢層が暮らす分譲マンションだ。物件の

「自治会ができたのは、以前八王子市役所の職員の方が住んでいて、その重要性を熱心に説明してくれたからなんです。」という語る村尾さんは、3期にわたって会長を務めた2児の母。「私たちの自治会は全員加入が原則で、当初は私も輪番制で役員を引き受けただけでしたが、前会長が自分とは異なる世代の課題にも熱心に取り組む姿を見て、できることはやってみようと思ったんです。その気持ち

の活動は、片所谷戸でのホテル観賞や、200人以上が参加する夏祭り、防災訓練、総会など。「普通だったらママ友とか近い世代の人としか交流できないですが、自治会のおかげで様々な世代や他のエリアの方とも知り合える。それはとっても魅力だと思います。」

新たな取り組みとして始めた「焼き芋プロジェクト」は、近隣町内会・自治会まで巻き込み、今では300人以上が参加する一大イベントとなった。

「会長だった時、下の子はまだ赤ちゃんだったので、泣き出せば抱っこしてあやしたり、部屋の中を歩き回ったりしながら、ミーツィングに参加していました。そんな状況を目のあたりにした皆さんが助けてくれたのも、自治会がいい雰囲気回っている理由かもしれません。」

世代を超えて住民たちが協力し合い、地域のことを考える。日本古来の暮らしの原点がそこにあった。

世帯を超えて住民たちが協力し合い、地域のことを考える。日本古来の暮らしの原点がそこにあった。

世帯を超えて住民たちが協力し合い、地域のことを考える。日本古来の暮らしの原点がそこにあった。

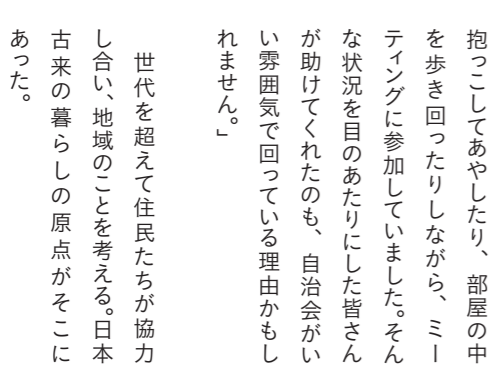


Illustration by AKANE INOUE



A. マジシャンやヒーローをゲストに呼ぶなど、様々な企画で子どもたちにも人気の夏祭り B. 高齢者向けの介護予防出張講座 C. 焼き芋をしながら親睦を図る「焼き芋プロジェクト」 D E F. 自治会を今でも支えている元役員たち